

事業の背景・目的

サクラなどバラ科の樹木を主に食害し、枯死させる「クビアカツヤカミキリ」の生息が、平成29年に河内長野市域で確認され、被害が拡大しつつある。生息域を拡大させないため、様々な主体と連携し、個体の防除と生息域の封じ込めに努めることにより市域のサクラを守るとともに、第5次総合計画等に基づき生物多様性の保全を図る。

事業の内容

（令和3年度）

事業概要 被害状況の追跡調査を行い、前年度の活動の評価をする。また、その結果に基づき、被害木に対して薬剤注入や伐採などの適切な処置を行うことにより、引き続き市域におけるクビアカツヤカミキリの生息域の拡大防止を図る。

- ▶事業① 被害状況の調査
 - ・令和2年度に実施した防除対策について大学等の協力も得て効果を検証し、市域の被害状況を確認した。
- ▶事業② 生息域の拡大の防止
 - ・令和2年度に引き続き調査結果に基づき、被害木に対する薬剤注入を実施した。
 - ・自治会より防除の相談を受け、市内の団体を紹介することで自治会が主体となった防除が行われた。
- ▶事業③ 情報発信及び普及啓発
 - ・ポスター、広報紙等による防除活動の啓発を行った。
 - ・大阪府協議会を通じて近隣自治体と防除情報共有を行った。
 - ・自治会へクビアカツヤカミキリ防除可能な団体を紹介した。

事業① 被害状況の調査



事業② 生息域の拡大の防止



事業③ 情報発信及び普及啓発



得られた成果

- ・被害状況調査を踏まえ地域・被害木ごとにとりまとめたカルテに基づき防除方法を判定し、46本のサクラについて薬剤注入を実施した。交付対象事業とは別に、市上下水道部が所管する施設内の被害が確認されたサクラについて農薬処理ができなかったため、施設管理の一環で伐採（31本）を実施しており、これを含めると本事業で被害対策した樹木の数（サクラ）は合計77本になる。
- ・自治会等に対し啓発活動を実施し、防除について相談のあった自治会が防除事業者を案内し、防除が実施された。